ひむか メディア アクション
HIMUKA MEDIA ACTION

ひむかかるた通信 第4号

集え！かるたっ子

第８回大会 来年２月14日に開催 ―参加者募集中！

今年度のひむかかるた大会は２０１５年２月14日、例年通り宮崎公立大学体育館で開催されます。ひむかかるた協会は昨年、設立２年目の展開として市内各小学校訪問を実施し、かるたを紹介すると同時に、かるたの指導をＨＭＡやボランティアの協力を得て行ってきました。また小学校の先生方による自発的なかるた活動、教育ツールとしての導入の試みなども実施。その甲斐あって大会には小学校16・１０９名、保育園３・36名の合計１４５名の参加があり、参加校数は上昇に転じました。かるたの普及は確実に進んでいます。

第7回大会の様子。 開会式で選手宣誓をする大宮小の児童

今年度は、こういった展開をさらに広げていく年と捉えています。現在、大会の目標として掲げているのは参加校数小学校・保育園を合わせて25。昨年度、協会側が学校訪問を行った際、学校の中には現在は準備が整っていないが、来年度までには出場可能との回答を数校から得ており、また保育園からの新規参加要請もあることから、この数字は実現可能な数値と認識しています。

協会としては、今年度の大会のさらなる盛況に向けて現在キャンペーンを進めていますが、とりわけ勝負どころとなる12～１月にかけて、いっそうの呼びかけにつとめていきます。

平成26年度実践モデル校・協力校紹介

ひむかかるたの普及に向け、本年度は７小学校にご協力いただいています。以下、各校の取り組みについて紹介します。

・小戸小学校

昨年度に引き続き、「実践モデル校」として取り組んでいます。今年も子供たちの運営による校内かるた大会を開催します。

・西池小学校

「実践モデル校」として「百人一首・トランプ・かるた」クラブ（18人）を中心に、ルールに基づいた試合や正式ルールの確認、審判指導などに取り組んでいます。

・大宮小学校

本年度から「実践モデル校」として取り組むこととなりました。昨年度から始まったひむかかるた専門のクラブ「ひむかかるたクラブ」（９人）で試合や正式ルールの確認、審判指導を行っています。

・宮崎小学校

本年度から新たに「協力校」として取り組むこととなりました。「レクリエーションクラブ」（23人）において、正式ルールに基づく試合や、審判業務の学習を行っています。

このほか高岡小学校、大塚小学校、七野小学校でも、学校行事やクラスの活動、クラブ等でひむかかるたに取り組んでいます。

USTで絶賛配信中！！

ひむかかるた大会の様子は、動画共有サイト「Ustream（ユーストリーム）」でも配信。この通信と合わせて、子ども達の熱気をお伝えしています。大会に参加できなかった学校や、これからかるたを取り入れようとしている学校は必見！

ひむかコラム

かるたの札はどうやって選ばれたのか

46枚のかるた札はどうやって選ばれたのか

郷土かるたは地域の歴史、名勝地、名産物、産業、偉人、文化、精神性、農産物などをテーマにしています。ひむかかるたもこれらジャンルを含めていますが、ジャンルごとの枚数についてはその選択にあたり様々な工夫がなされました。

ひとつはアンケート調査を行ったこと。製作前に宮崎県民に宮崎から思いつく項目を挙げてもらい、ジャンルごとの比率を参考にしました。ただし、これだけでは困ったことが起きます。ひむかかるたには箱の中にひむかかるたマップが同梱されています。これは宮崎県の地図にかるたのテーマが貼られたものですが、全県に渡って満遍なくかるた札のテーマが配置されているのです。こうしたのは宮崎の子どもが宮崎について、一部の地域に偏ることなく広く学んで欲しいとの思いを込めて配慮を行ったから。

ちなみに最も多いジャンルは農産物。他の郷土かるたに比べて圧倒的に多いのです。なぜって？それは宮崎が日本有数の「農産県」だから、というわけです。

（ひむかかるた協会長・新井克弥）

宮崎・檍地区

ひむかかるたで築く地域の輪

10月19日に宮崎市立檍（あおき）中学校で開催された「檍地区文化祭」に、ひむかかるたが特設コーナーを出展。子どもから大人、お年寄りまで幅広い人たちがかるたを楽しむ中で、かるたの新たな魅力が見えてきた。今回は、その様子をコーナー担当の福祉施設・皇寿園勤務の小嶋幸恵さん（宮崎公立大学卒）に伺った。

宮崎市・檍地区文化祭のかるたコーナーでは地域の人勝ちが見守ります

札の解説始める大人も

当日は、通常の２枚分の大きさがある「大判かるた」を使用。高齢者からは「見やすい」「絵が面白い」といった声が多く聞かれた。小嶋さんによれば「高齢者にとっては札の一枚一枚が色鮮やかで、コントラストがはっきりしているため、色を識別しやすい」という。

小嶋さんにとって印象的だったのは、子どもたちとかるたに興じる大人たちの様子だったという。かるたに取り組んでいる子どもを励ましたり、札の解説をしたりしていたのだ。「地域の世代間交流が自然と生まれているように感じました」と小嶋さんは振り返る。かるたを中心に、大きく離れた世代が結びついたのだ。

小嶋さんは勤務先でも日頃からレクリエーションに大判かるたを活用している。そこでも、利用者間の交流を生み出す側面に注目している。「新たな入所者の方を率先してかるたに誘うことがありません。まだ環境に慣れていない方は、緊張したり遠慮をしたりするのですが、かるたを始めるとすぐに素の自分を出して下さるように思います」。かるたが他の入居者の輪に溶け込みやすく、高齢者の孤独感を払拭させることに一役買っているようだ。

また、観戦している利用者が昔語りを始め、輪の中に入って来ることもあるという。どうやら、ひむかかるたを中心にした交流の輪が高齢者の間でも広がっているようだ。

今回のイベントを通して、小嶋さんは今後、ひむかかるたを地域の高齢者と若年者（小学生や園児など）の交流のツールとして活用していきたいと考えている。福祉コーナーを担当する檍地区福祉協議会のメンバーも地域かるたに大変興味を抱いてくれたようで、かるた活動を通して世代間の交流の機会を増やしていこうという姿勢が見られた。恐らく、今後、今回の檍地区文化祭のような交流の機会が増えていくのではないだろうか。ひむかかるたが地域に根を下し、なじみの深いものになっていく。そんな、ひむかかるたの今後が期待される。

（取材・崎平結宇、中原理恵、古澤里奈、森田陽子）

初めてのひむかかるたでも、試合が始まれば真剣そのもの。

ひむかかるた取材します！

「ひむかかるた通信」では、皆さまからの情報をお待ちしております。学校や企業、個人の活動、スタッフが取材に伺いますのでご連絡ください。

TEL：0985 - 20 - 4839

Mail：himukama@gmail.com

平成26年度協会役員紹介

最高顧問：内藤泰夫（宮崎市芸術文化連盟会長）
顧問：井上雄二（宮崎市社会福祉事業団理事長）
会長：新井克弥（関東学院大学教授）
理事：倉岡豊実（宮崎学園短期大学講師）白石知子（宮崎学園短期大学講師）高山秀典（宮崎文化振興協会みやざき歴史文化館・事業総括調整官）吉村久美子（清武みどり幼稚園園長）内田俊樹（宮崎市校長会会長）恵利修三（小戸小学校校長）緒方理一郎（小戸小学校教諭）押川紘一郎（宮崎中央ロータリークラブ）黒木雄一（宮崎中央ロータリークラブ）尾崎貞人（社会福祉法人友和会理事長）川瀬隆千（宮崎公立大学教授）山口孝治（高岡小学校教諭）黒木裕太郎（第８回ひむかかるた競技大会実行委員長）後藤慎市郎（ＨＭＡ会長）小嶋幸恵（社会普及事業担当）古澤里奈（宮崎公立大学ＨＭＡサークル部長）事務局長：梅津顕一郎（宮崎公立大学准教授）

製作／ひむかメディアアクション　発行／ひむかかるた協会
編集／古澤里奈、森田陽子、崎平結宇、中原理恵、松崎環、吉形和晃、岩元萌葉、宮尾佳那
田中千喜、藤田直緒、山内麻稚、新開さくら、益田有紗、藤島由芽、有吉千佳、石津千尋